

【意見】

沼田市出身で、両親などは今も沼田市在住です。2年ほど前、母が鬱病と診断され、現在も投薬治療中です。通院と投薬・安静で、少しずつ回復傾向にありますが、「鬱病になった」などの噂が独り歩きし、過去に付き合いのあった方から変な目で見られるようになってしまいました。確かに「鬱病」を患っています。ですが、苦しみながらも本人はやっと生きる光を見出そうとしているのに、鬱病＝悪い病気、変な人の噂や偏見が付きまとっているそうです。

沼田の人々は、鬱病などの精神疾患に対する理解がなく非常に残念。鬱病に対し、正しく認識している市民が少ないのは、どうなのでしょう？

沼田は閉鎖的な面もあるからの一言で済ますべきではないと思います。

挨拶しても無視される・変な目で逃げられるは、立派な苛めですよ！！

女性30代：市外在住

【回答】

うつ病は、子どもから高齢者まで世代を問わずに発症し、誰もがなり得る可能性のある極めて頻度の高い病気です。

うつ病をはじめとするこころの病気については、日頃から日常生活での注意点や、対処法、まわりの人の配慮等について市民の方への周知啓発を広報、パンフレット配布などにより行っています。

また、認知症をはじめとした様々な疾患を持つ方に対して、地域での見守りや他機関等のネットワークを構築し、誰もが安心して暮らせる沼田市を目指しています。

保健推進員等の健康づくりに関係する方への、講習会、講演会等を実施しており、誰でも相談しやすいように相談窓口の周知等も常時行っています。

こころの病気につきましては、外見からではわかりづらかったり、また、症状も個々に異なるため、この病気への理解を伝えるのが難しい部分もありますが、誰もが地域の中で安心して暮らしていただけるために、市民の皆さんがこの病気に対して、より理解してもらえるよう工夫を重ね広く周知していきたいと思います。

担当：健康福祉部健康課保健係